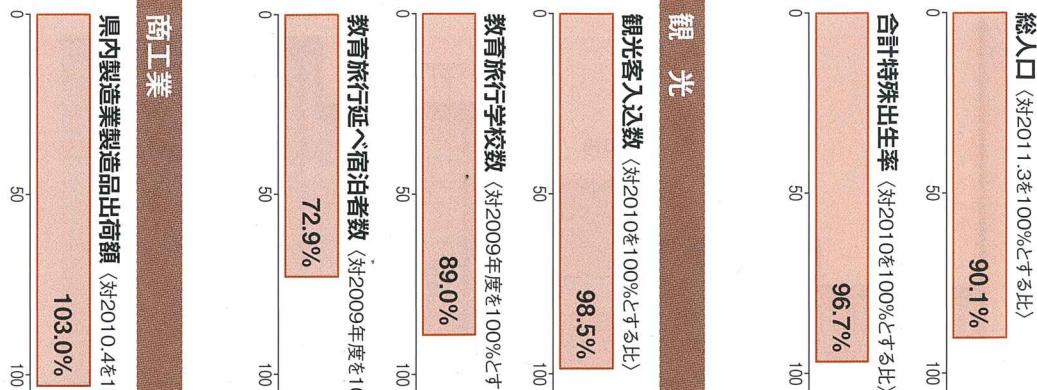


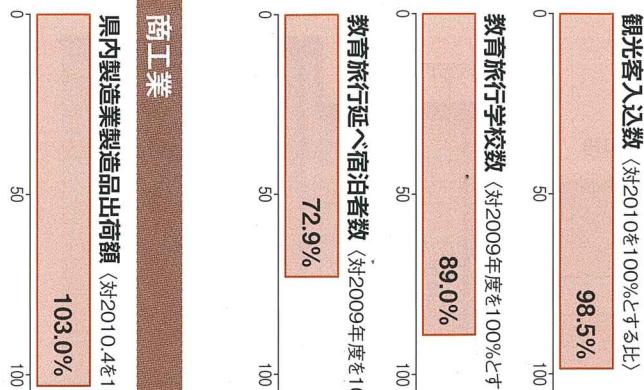
資料

福島の復興状況

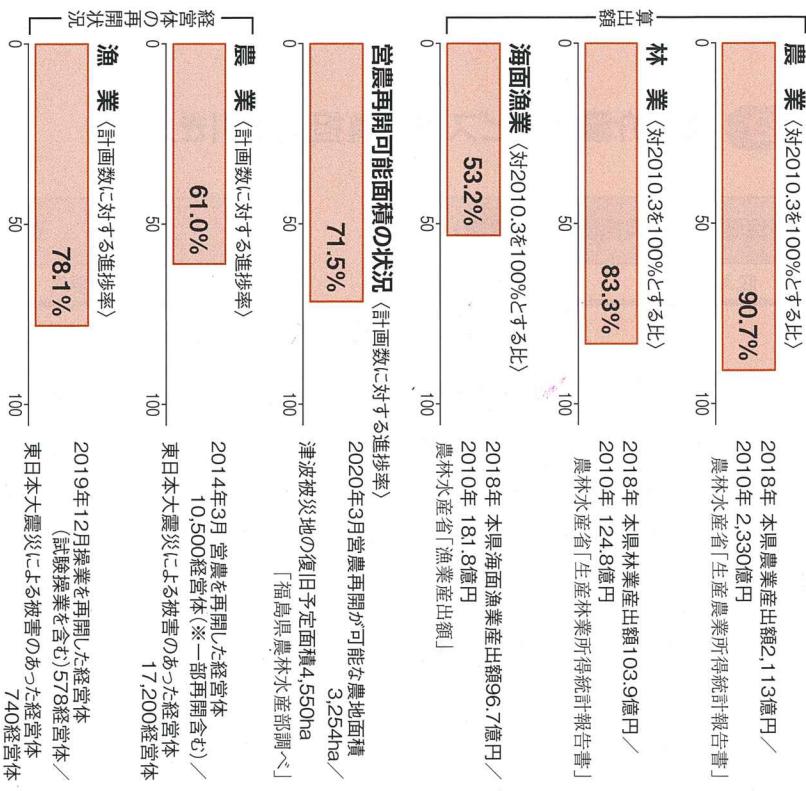
人口



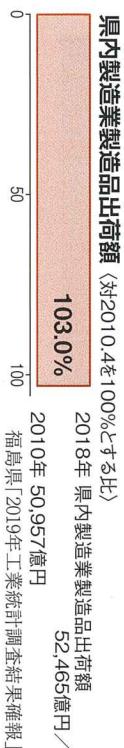
観光



農林水産業



商工業



座談会 原発事故10年

若い世代の活躍で 福島から原発ゼロへ

参議院議員 いわぶち 友
党福島県議 大橋沙織
党福島県委員長 町田和史



いわぶちとも

おおはし さおり

まちだ かずし

町田和史 党福島県委員長（兼司会）
東日本大震災・福島原発事故から十年が近づいています。今日は日本共産党のいわぶち友参議院議員と大橋沙織福島県議会議員といっしょに、震災・原発事故十年と未来への展望を語り合いたいと思います。

二〇一二年十月から日本共産党福島県委員会の公式ユーチューブチャンネルで「#日本共産党at福島」をはじめていて、今日のお二人と佐々木優福島市議の三人の若手女性議員が政治や社会のことを楽しくトークしています。今日もそんな雰囲気でできればと思っています。よろしくお願いします。

十年振り返つて

町田 まず、十年を振り返つてどうでしようか、いわぶちさん。

未曾有の困難のなか、分断を乗り越えて頑張ってきた

いわぶち友参議院議員 はい。私は、当時は党福島県委員会に勤務していました。二〇一一年三月十一日十四時四十六分に地震が起き、すぐに立ち上げられた対策本部のメンバーとして避難所の訪問や地方議員のみなさん

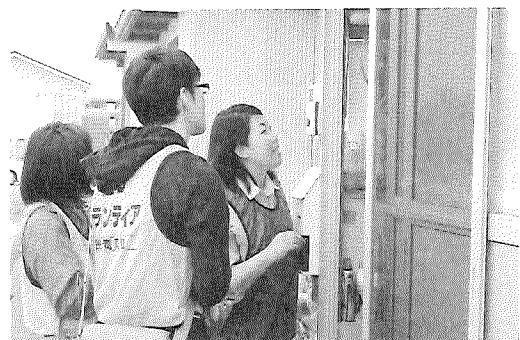
#日本共産党 at 福島



党福島県委員会の公式ユーチューブチャンネル「#日本共産党 at 福島」



ふくしま復興共同センターらによる政府・東電交渉（前列中央は高橋千鶴子衆院議員）（2013年5月）



青年ボランティアといっしょに仮設住宅を訪問（2015年5月）

町田 仮設住宅に断熱材を入れさせたり、風呂の追い焚きをするようにしたり。

いわぶち そうそう。物置や掃き出し口の設置などもありました。被災者と政治をつなぐ大事な役割だったと思います。

町田 原発事故の被害はいまも続いていますが、本当にいろいろなことがありました

いわぶち まも続いていますが、本当にいろいろなことがありましたね。

いわぶち 原発事故被害への対応でとくに重視したのは、国と東京電力

によって持ち込まれる分断をどうはねかえしていくのかということでした。同じ被害者の間に避難指示区域の違いで線引きされ、賠償額や支援内容が異なる。これは困難や不安を抱える被害者にとって受け入れがたいことだつたと思います。

しかし福島県民はこれを乗り越えて力を合

わせたたかいました。モニタリングポストの撤去を許さず、汚染土壤の再生利用をストップさせ、第二原発の全基廃炉を決定（一九年七月）させました。生業訴訟はじめ、全

と連絡を取りながら被害実態の把握にとりくみました。「原発に何かあつたかもしけない」と当初から心配されていたもとで、政府の原子力緊急事態宣言（十九時三分）、福島県対策本部の半径二キロ圏への避難指示（二十分五十五分）が出され、地震と津波で電源喪失状態となつた第一原発で炉心溶融、原子炉建屋爆発、放射能拡散という事態にすんでいました。

これまで経験したことのない事態を受けて対策本部は、国会・県・市町村の各議員、福島復興共同センター（斎藤富春代表）をはじめ各種団体などのみなさんとも連携しながら各種団体などのみなさんとも連携しながら

さまざまなもので支援活動を行いました。假設住宅などの支援活動で一番大切だったと感じたのは要望の聞き取りです。みんな本当に不安を抱えておられて、話を聞いてもらつただけでもうれしかったという人も多

いらっしゃいました。聞いた要望を自治体・県・国につなぎ、さまざまな改善を実現することができました。

つてきた十年間だったと思います。

町田 本当に頑張ってきた十年間でしたよね。課題をあげればもちろんいろいろあるのですが、まずは未曾有の困難のなかで原発事故被害者、地震・津波被災者はもちろん、県民のみなさんが自分たちの生活をとりもどすために頑張ってきた、この確認が大切だと考えています。

不安、もやもや、そして想像もつかない変化

町田 大橋さんはどうでしたか。

大橋沙織福島県議 当時私は福島市内にある短大の一年生で、地震が起きた瞬間は学校でサークル活動の最中でした。すごいゆれで、とりあえず建物から出て駐車場にみんなで集まつて、ワンセグのテレビ放送で津波の

ことを知り、雪も降ってきてとても不安な思いをしたこと鮮明に覚えています。その後も、買い物などでかなりの距離を歩いて移動していましたし、外出は放射線量を気にしながらマスクをしてという状態で、とにかくしばらくは不安が大きかったです。いわぶち 当時、青年学生担当もしていましたが、民青同盟員や学生党員も、「自分は避難しなくていいのか」ということを含めて、みんな不安な思いを話していましたね。

大橋 二〇一二年三月に短大を卒業して、就職したりアルバイトをしたりと悩みながら

転々としていたのですが、秋に新しい就職先を探しにハローワークにいったときに、駐車場でチラシを配っている人がいて、断り切れずに受け取つたら「原発、放射能、仕事や将来のこと、誰もがもやもやした気持ちを抱えている。原発事故が起きた福島から、日本の今これからを考えよう」という「もやスカ集会」(「もやもやふつとばしまスカッ!! 福島青年大集会2012」フクシマで考える日本今とこれから)（二〇一二年十一月）のお知らせで、流れでアンケートに答えることになつたんです。

就職という壁にぶつかったと感じていた時に、民青の人たちが仕事の悩みだとかいろいろなことについて、その解決を求めて署名を

集め自治体や議会に届けているのを知つて、私はどうしても友だちや家族としゃべるときは愚痴で終わっていたけれども、その行動をしているのがすごくいいなと思って民青に入りました。

町田 愚痴で終わらせずに実現させたいと
いう思いからはじまって、一九年十一月には二十八歳で県議に当選しましたね(伊達市・伊達郡区・定数三)。ハローワークに仕事探しにいつて結果として県議になった。この十
年に大きな変化があつたと思います。

大橋 本当に、まったく想像もつかないよ

うな変化の連続でした。民青や共産党に入つていろいろな経験ができたと思いますし、民青で県委員長をしていたときに全国で悩みながら頑張つている同世代の人たちと中央委員会で定期的に交流できたことは大きな支えになつていたと思います。

いま振り返ると、原発事故は社会のことを考える大きなきっかけになつたと思います。仕事のことで悩んで、あの日のあの時間にハローワークにいつていなかつたら、今頃どうしているかなと思いますね。

人口、産業は震災前には回復せず、県集計

でもいまだ約四万人が避難

町田 福島のこの十年は、本当にいろいろ人の人生を変えた十年だったと思います。



「もやもやふつとばしまスカッ!! 福島青年大集会」(2012年11月、福島市)

私自身のこととで言うと、当時は県の書記長

で、県委員会事務所で目前に迫っていた統一地方選挙の打ち合わせをしようとしていた矢先、それこそ地球が終わるんじゃないかと思うほど激しいゆれに見舞われ、机の下に潜り込みました。直ちに対策本部を立ち上げましたが、棚が倒れ、エアコンが落ち、電気も水道も止まつてましたので、市内で電気が通つていた渡利の県議選事務所に対策本部を移しました。

第一原発が爆発した瞬間、当時1号機と3号機がプルサーマルでの稼働中だったことも知つていましたので、「どんでもないことが起きた」と感じました。原発事故後の特徴は、いわぶちさんも言わされましたら、分断を強いることです。放射線量での分断、道一本はさんで扱いが全く変わるという地理的な分断、そして賠償での分断です。放射線の影響をめぐる分断は深刻で、県民同士、家族内でも分断や対立のような形まで生じてしまつたのは本当に不幸なことだったと思います。その苦い教訓からも、原発事故は決して起こしてはいけないものだと強く感じています。

いまの復興の現状ですが、県の「ふくしま復興のあゆみ」(巻頭のデータファイル資料参照)によると、福島県の人口は約百八十二万人(二〇二〇年十一月一日現在)で震災當時の九〇・一%です。自然減があるにしても

一割減っています。避難者は三万六千八百十人(十二月)とされています。あくまで県がつかんで公表している数字で、実際の避難者はこれよりかなり多いのが実態です。

産業などの復興の状況(一八年、産出額ベース)は、農業は震災前の九〇・七%、林業は八三・三%で、海面漁業に至つては五三・二%にしか回復していません。観光客は、教育旅行宿泊者数が七二・九%という状況で、震災前までは回復していません。他にもさまざまな指標はありますが、震災前を回復していないというのが十年経つての基本的な到達点だと思います。

原発復活、「福島切り捨て」は許されない

町田 一方で政府は、「原発事故も被害も終わつた」と見せようとしています。放射能汚染水(処理水)の海洋放出方針であり、生業訴訟などもたたかわれていますが賠償や支援の打ち切りです。原発推進の姿勢も強めています。「二〇五〇年温室効果ガス排出実質ゼロ目標」を打ち出した二〇年十一月の菅総理の所信表明は、気候危機への対応は当然で遅すぎるくらいですが、そのもう一つの側面

言」となつていることは認められません。全国でも、被災地宮城で女川原発再稼働に向けた動きが強められていることをはじめ、北海道での高レベル放射性廃棄物最終処分地の文献調査開始問題、青森県むつ市中間貯蔵施設問題、また四十年超の老朽原発の再稼働推進では地元自治体から推進を求める意見書をあげさせるなど、これまでになかつたような動きも出ています。

一方で、原発推進を許さない国民のたたかいもひろがっています。この十年間に再稼働した原発は事故当時存在した五十四基中九基にとどまり、福島の第一・第二原発全十基を含め二十一基が廃炉決定されています。これらは大いに確信にすべきことです。

原発をなくす全国連絡会が事故十年を機に改めて「福島の真の復興と原発ゼロ基本法の制定をめざす大運動」(二〇年十月～二一年十月)を呼びかけ、原発ゼロ署名のとりくみがはじまっています。これは福島県にとっても希望と言える提起だと受け止めています。福島でも原発ゼロ署名を一生懸命とりくんでいきたいと思います。

いわぶち 私も「福島切り捨て」がすごく進められてきていることを感じています。その一つは、被害の実態を小さく見せようとする姿勢です。避難者数は県の発表は三万七千人ですが、復興公営住宅に入居した方は含ま

れませんし、避難指示区域外からのいわゆる自主避難者もきちんと把握されていません。

少なくとも八万人以上、九万から十万と見ている人もいます。避難が続いている間、避難指示解除で住宅提供などの支援は打ち切られています。事故から十年を前に、県議団・県委員会が実態調査しているところですけれど、賠償が打ち切られるなかで、公共料金の支払いも難しくなっている被害者がいます。被害者が置き去りにされています。

町田 被害を小さく見せよう、きれいに見せようといったやり方はこれまでもさんざんやられてきて、県民は嫌気がさしています。こうした自公政権のやり方に、冷たさを感じます。十二月の二中総では、菅政権の冷酷さと合わせて強権性を指摘しました。福島県民はおとなしいといわれることがあるのですが、この「切り捨て」は許せないと声を上げ、たたかってきました。政権が一刻も早くやりたいと思っている「福島切り捨て」をさせないで、県民は一生懸命頑張ってきたと思いますし、そうした話をすると県民とかみ合ふことを感じています。そして、他方で、「国や東京電力は責任を果たしているのか」と問いかけると、やはり県民はみんな非常に不十分だと思っている。だから福島では一貫して、世論調査での政権支持率は全国と比べて低いのです。

自民党政治に歪められた福島県政

大橋 県議団でこの間、県内外に避難している人たちから話を聞いてきました。賠償や

家賃支援がなくなり、現役世代も年金生活者も困窮している実態などが口ぐちに語られました。高齢者の一人暮らしが増えるもので深刻なのが、復興公営住宅での孤独死です。二〇二〇年の一年間だけでも十五人ほどにまでなっています。馬場いさお浪江町議の話では、復興公営住宅には異常事態を知らせるボタンもあるけれど、ボタンが押されても駆け付けられる人が周りにいないのだそうです。

また、国家公務員宿舎への避難者に対しても県が退去を求める裁判を起こすなど、まさに避難者切り捨てを推し進めています。こうした県の対応が避難者をいつそう追い詰めていくと感じます。

支援対象者をバッサバッサと切つていき、そこから漏れた人はもう相手にしないという県の冷たさが際立っています。国に対して県はもっと被災者の立場に立つべきなのに全然そうならない。もどかしく感じています。

**惨事便乗型、呼び込み型でなく、
被災者の暮らしを取り戻す支援こそ**

それ以前の佐藤雄平知事は自身がもともと民主党の参議院議員でしたし、与党の主力は民主党系でした。それが内堀知事になり、そもそも内堀氏を担ぎ出したのは民主党系の人たちなのですが、自民党がそこに抱きついで、結局、県政のメインストリームになってしまったのです。このなかで、当初のオール福島がどんどん失われていきました。

いわぶち 一七年に国が自主避難者の住宅無償提供を打ち切りました。国は県から要望があれば継続すると、県に責任を押しつけました。そうしたなかで、県は住宅を出ていかない人を訴訟にまでかけて追い出そうとしています。損害賠償の問題でも、当初は、知事をトップに商工会やJIA、さらに農民連や福商連なども含め、県内の二百を超える団体が対策協議会を作つて要望活動をしていましたが、いまは形骸化してしまっています。

いわぶち 国は、避難指示が解除された地域で、生業再建を支援するとして、予算と人を投入しています。しかしながらうまくいきません。人が戻らずお客様がいないうちです。

国会でも取り上げましたが、浪江町の自動車板金屋さんがいち早く町に戻つてみんなの役に立ちたいと店を再開し、近隣の地域も含めて広告も出すなど努力したけれども、結局続けられませんでした。

いま国は、住民が戻ることよりも、外から入つてくる人を増やそうとしています。

イノベ構想、祈念公園、エネルギー政策

いわぶち そしてその方向で、国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想がすめられています。研究拠点を作つて研究者を呼び込み、交流人口を増やしていくといふことです、もともとの住民が「戻つて元のところに住みたい」「暮らしたい」と思つても、そうできないような構想が、果たして復興と言えるのかという根本的な問題が問われています。被害にあつた住民が、どんな選択をしても尊重されることが大切だと思います。

町田 復興と称して呼び込み型の事業、本事便乗型開発がすすめられています。必ずしも元に戻るだけが復興の選択肢ではないとしても、そこに住んでいた人たちが幸せになれないので、だつたら、それはもう復興ではなくてただの開発です。だから福島県民は、県が国と一緒にすすめるイノベ構想が復興事業と言わることに違和感を持つているのです。復興祈念公園の問題もありますね。

大橋 復興祈念公園事業は、犠牲者らの追

悼を目的に、国が浪江町と双葉町にまたがる約五十ヶ所の場所に整備するとしているものです。当初は全額国費で四十四億円の計画と聞かされていて、そのときも本当にそれだけの規模と予算が必要なのかと疑問でしたが、十二月の県議会で事業計画が国八十六億円、県五十億円の百三十五億円とされて、びっくりしました。いま大きな問題になつていています。

これだけのお金があつたら、震災被災者・原発事故被災者のために、いろいろな減免の継続や生活支援員の配置などができます。お金の使い方が間違つていています。

東日本大震災・原子力災害伝承館について

も、問題点があると感じています。建物に入ると最初に動画を見ることになつていて、それが、それは結局のところ、「福島は原発で潤つてきた」というアピール映像なのです。

原発事故を振り返るなら、国が地元の反対運動を抑えつけて原発を強引に建設し、今回の事故に至つたという歴史があるですから、

それをしつかりと伝えなくてはいけないと思います。きらびやかなことだけを知らせよう

とする施設になつていて、問題があると感じています。

いわぶち イノベ構想はかなり広い分野にわたつていて、あきらかに「復興」に便乗したことのあります。いわき市勿来と広野町の

IGCC（石炭ガス化複合発電）は、高効率

といつても大量のCO₂を出す石炭火力発電です。福島県自身は二〇四〇年までに再エネ一〇〇%と言つていてるけれども、整合性があります。また、避難地域だったところはいま太陽光発電だけですが、これも復興事業といわれると違和感があります。

町田 エネルギーの問題でいえば、原発はもう止めよう、気候危機のもとで再生可能エネルギーが必要だということは県民世論としても明確です。しかし大規模な乱開発型の事業が増えていることが問題で、福島にとっても再エネ推進をどのようになかたちですすめるかが問われています。

いわぶち 基本は、野党が共同で提出している原発ゼロ基本法案と、それを実行するための再エネ推進法を実現することです。福島農民連は、伊達市靈山町や郡山市で地域と連携した市民共同発電にとりくんでいて、自分たちで電力も農作物も作り、地域と共生する再エネの拡大にとりこんでいます。また、会津電力や飯舘電力などの市民電力もたちあがっています。

これまでのような大規模な発電施設頼みではなく、地域に密着した小規模な発電がさまざまに進められています。送電線接続の問題など課題も多く、私も経済産業委員会などで改善を求めてきましたが、一歩ずつ解決してき

ているところもあります。地域や市民を主体にした再エネを広げていくことが大切だと思います。

福島の農業、若者の未来

町田 福島の基幹産業である農業をどうするのか、後継者対策も大切な課題ですね。

大橋 十二月県議会での質問では、農業の後継者対策を取り上げました。県は国の後継者対策制度を使って毎年二百人新たな就労者を迎えていると宣伝していますが、この国の中制度は、親元就農は駄目という枠など、いろいろ条件があるので、しかし農業を受け継いでいくということを考えたら、親元で同じ作物を作ることは技術的継承の点でも有効です。いま、農業を継ぎたいと都市部で働いていた人が帰つてくるケースもチラホラみられるようになってきています。そういう人たちが活用できる支援制度を県も持つべきだと提案しました。すでに市町村ではけつこうやつてしているのです。

町田 二十代の若者に、田舎暮らしに関心を持つている人が増えています。現状はまだ若い人が福島からどんどん出ていっている状況ですが、それはみんなが都会暮らしをした

くて出していくというわけではありません。できれば福島で幸せに暮らしたいと思っても、仕事の問題を含めて構造的に他県に出ざるを得ない若者も少なくあります。

大橋 私自身も、共産党に入つていろいろな考え方をして、自分が主体的に関わつてこのもやもやを変えていくんだと、そう思えるようになりました。けれども、なかなかそういうふうに普段の生活だけでは考える機会はないだらうとも思います。若い人たちの間でも将来の不安は高まつていて、年金の話や老後の話、このままどうやって生きしていくのかということが結構話題になります。同世代の友だちと話していても、とにかく毎日の仕事をこなして、一日一日をとりあえず生きている、一杯いっぱいなんだなど感じることも少なくありません。

イノベ構想のなかに農業振興も組み込まれていますが、民間企業による大規模な経営体での農業が主な対象です。しかし実際には県内では圧倒的に家族農業経営の人が多いわけで、そういう人たちが県土を守つて基幹産業の農業を支えてきたのです。そこへの支援は本当に弱いと感じています。

町田 イノベ構想ではスマート農業の推進が盛んで、何十億円という予算がついていますね。

大橋 そうです。その一方で、コメの放射

線量を計る全袋検査は二〇一〇年度から抽出検査に変わっています。農家の人はからは、県外に出すときは全袋をやることが買い手との信頼関係になつていているという声もあります。

農業だけでは食つていけない、コメ作つて飯食えねえという言葉がありましたけれども、原発事故を受けてそういう状態が深刻になつていると感じています。

町田 事故直後に衝撃的だったのは、須賀川のキヤベツ農家のたや相馬で牛を飼つて頑張っていた人が自死されたことです。自分の命をかけるくらいのプライドを持つて人の口に入るものをついていた人たちが、その仕事を奪われた。農家のみなさんには、一生懸命そこから再開をさせてきましたのです。

農家も漁協者も十年頑張つてきて、ようやく見通しが持てるところまできた。そのときに、風評被害を招くことが避けられない放射能汚染水の海洋放出はぜつたい許せないということなのです。

いわぶち 福島農民連は定期的に政府・東電交渉を続けています。福島市内で多い果樹農家は、高圧洗浄機で樹木を洗い流し、除染を自分たちでやりました。しかしその時に流れれた水は土壤に残つていて、国にモニタリングや除染を責任を持つてやってほしいという声がずっと出されています。

コロナでいつそうの影響

町田 新型コロナの影響にも触れておきた
いと思います。原発事故のダメージを回復し

きれていない福島には、とりわけ過酷な形で
現れました。福島のお米は本当においしいの
ですが、原発事故による影響は避けることが
できず、事故後は個人消費よりも業務用米の
比率が高まっています。そこにコロナで外
食産業が落ち込みましたから、その影響をも
ろに受けてしまつたのです。もう一つは、牛
マルキンの制度改定ですが、大橋さんが県議
会でとりあげましたね。

大橋 通称牛マルキンは「肉用牛肥育經營
安定交付金制度」のことです、価格の落ち込み
に対する補填制度です。少しややこしいので
すが、標準的な販売価格が生産額（子牛購入
代、えさ代、人件費など）を下回る状況にま
で価格が下がった場合、赤字額の九割を交付
する仕組みです。その標準額の算出対象が二
〇〇〇年度から「福島県」単位から「東北ブロッ
ク」単位になりました。すると、今回コロナ
の影響で牛マルキンの対象にまで価格が下が

つたのですが、原発事故の影響で他より安く
取引されてしまう福島の畜産農家にとって
は、実際の販売価格より標準的販売価格が高
くなり計算上の赤字幅が狭まつて、交付額が
減つてしまつたのです。県の畜産課による

と、二〇〇年三月分の場合、制度変更によつて
一頭当たり十万円以上の減額になつていると
いいます。

町田 福島の畜産農家はなにも悪いことは
していないのに、原発事故とコロナの影響と
制度改定が重なつて、最も大きな影響を受け
ることになつてしまつたのです。

業者の営業の問題も同様です。原発事故の
影響に対しても納得できる賠償がなされな
い、売り上げは回復しない、消費税増税と、
体力がすり減つているところでのコロナ禍で
す。このように原発事故から回復していな
もとでコロナ危機を迎えた福島には、一層過
酷な事態が生じています。

いわぶち 福島県では一九年十月の台風災
害で農家などが被災し、これも復興途上で
す。

ジエンダー平等の提起を契機に はじまつた自己改革

町田 二〇二〇年の第二十八回党大会で綱
領にもいちづけられたジエンダー平等の問題

も話題にしていただきたいと思います。福島県の
共産党についていうと、県議団は五分の四が
女性です。若手でインターネットの番組を作

ろうと言つたら、いわぶちさん、大橋さん、
福島市議の佐々木優さんと全員女性になつて
いました。県の常任委員会はいま十人ですか
れども、四人が女性です。女性が屋台骨を支
えていることが、福島県党の強さの源泉とな
つているということだと思います。

いわぶち 党大会決定で位置づけられたこ

とは、女性にとつても自分たちが直面してい
る問題がジエンダーの問題だということを意
識するようになつたし、男性も意識が変わ
りきっかけになると思うのです。「集い」で
も、実態や思いが語られたり、積極的に質問
が出たり、自分も含めて、みんないろいろと
意識することがあつたのではないかと思いま
す。

大橋 私も綱領で位置づけられて本当に良
かったと思っています。党大会でドーンと掲
げられて、志位委員長の結語で過去の誤つた
対応を率直に認める報告があつたことはすご
く印象深くて。自己改革と本当に日々向き合
つていく、自分自身にとつてもそういう課題
だなと思っています。

これまでの社会がジエンダー不平等でつく
られてきて、ある意味それを当然だと思つて
きたところもありますから、パッと変われる

話ばかりではないとも思いますけど。実際、とくに議会ではストレスを感じることはたくさんあります。

いわぶち そうだよね。感じるよね。

大橋 県庁もそういう社会なんだなと。

町田 福島県議会には以前は女性用トイレがなくて、日本共産党的阿部裕美子さんが一九九五年に当選して最初にやつたのが女性用トイレをつくらることでした。

十二月の一中総でも、ベテラン党员の間で自己改革への意欲が高まり、地域の支部での学習が始まっているといふ。愛知県のジエンダー平等委員会事務局長の報告が紹介されました。変わらなければいけないという雰囲気は確実に出てきています。綱領や未来社会、自分の生き方に照らして考えていくところが共産党のすごく良いところですね。

原発ゼロを実行する野党連合政権 実現へ

町田 原発事故は決してくり返してはならないへんな事故だけれども、そのつらい経験のなかで、新たな未来社会への勇気が生まれてきていることも、また一方で間違いないのではないかと思います。

町田 野党共闘が大きく進んだというのもこの間の特徴です。最近、野党共闘の参院選福島選挙区の候補者として当選（二〇一六

原発再稼働に反対する首相官邸前をはじめとした全国各地での行動がとりくまれるようになり、国民が声を上げる形ができた。それはいまの野党共闘に直結しているし、さらにSNSなどで広がる新しいかたちも生まれ出し、安倍政権の検事総長人事問題などでは実際にこれを止めるまでに至りました。社会の変革がすすむ出発点になつたのも事実だつたと思います。

いわぶち いま福島県委員会でも国会でも震災・原発事故後の十年を振り返って、これから何が必要なのかを出し合つていて、そのとりくみ自体が大切なことだと感じています。これまで現場のみなさんがいろいろな実態を寄せてくれて、それを福島の声として国政に届け、さまざまな改善も実現することができました。このことは、引き続きやっていきたいと思います。そしてやはり、原発をなくしたいですね。原発事故が終わっていないというもとで、原発ゼロ基本法と再エネ推進法を実現したい。そのため、全国連の署名も広げたいですし、やっぱり総選挙です。原発ゼロを実現する野党連合政権をつくりたいと思います。

町田 大橋さんは三十年後の二〇五〇年でも五十歳代ですね。

大橋 民青で若い人たち、いまの十代や高校生などと話していると、十年前の原発事故當時のこととはよく覚えていないという人が結構います。そういうもとで、福島の実態、事故当時のことも含めて実態を発信し続ける役割が私たちにはあるということをすごく感じています。事故は終わっていないし、原発をゼロにする日までたたかい続けるというのが

年）していた増子輝彦氏が自民入党入りするという裏切りがありました。県民との約束を違えるわけですから、国会議員を辞めるのが当然だと多くの人が思っています。しかしこの問題は、福島の野党共闘全体がゆがんでいるということではありません。立憲民主党県連代表の金子恵実衆院議員からはすぐに連絡がありましたが、県連幹事長が共産党県委員会に謝罪にこられました。ある意味でかれらも裏切られた側ですし、そうした対応もあって、むしろ共闘のきずなが深まつたといつてもいいくらいだと思っています。

大橋 私も結論は総選挙での政権交代だと思っています。県政でもいまの野党が与党になることだし、先輩議員からは『あなたはこれから三十年、四十年がんばれるから』と言われます。

当にすごいとくみでした。 ◇

町田 福島の若
い人のとくみと

いう点では、ダッ
ペ（DAPPE）
のみさんの頑張
りが象徴的です。



汚染水海洋放出ストップを訴えた DAPPE など
(2020年10月、福島市)



2016年参議院選挙で、いわぶち友さんが初当選
(2016年7月)

今後のことではないかと思います。

いわぶち すばらしい。

当事者として社会や政治に向かいはじめた若い世代

大橋 原発事故で社会や政治のことを考え
るようになつたというか、福島の若者は特に
考えなきやいけなくなつたと思います。震災
直後はとくに、原発や政治の話も友だちとす
るようになりました。社会とか政治というの
が目の前に来た感じがしましたね。いまはさ
らにコロナの問題もあって、社会や政治が自
分の暮らしと密着しているんだという感覚が
広がっていると思います。

針を押し返すまでになりました。

これは福島の青年たちがさまざまな場面で
当事者として対峙している、せざるを得なく
なつたことと大いに関係があると思います。
いろいろな葛藤もあつたかもしれません
が、許せないことを止めるには、やはり怒りを持
つて立ち上ることが必要だということに行
きついたのだと思います。

いわぶち その若い人たちのとりくみが、
県内五十九市町村のうち七割にあたる四十二
市町村の議会と県議会で海洋放出に反対およ
び慎重対応を求める意見書の採択につながり
ました。各地の共産党議員も紹介議員になる
などして採択されるよう奮闘しましたが、本

も本当に大きかったと思います。

コロナ感染症で大変なことになつていて
かでも、党勢拡大でも非常に福島県は頑張つ
てきました。県議団長の神山悦子さんはじめ
県議団は、この十年間ずっと非常事態のなか
で本当に頑張り通しです。

そうした福島のたたかいで、あらためてこ
の十年の節目に確信にすることがすごく大事
だと思うし、被災十年を原発ゼロ決断の年に
したい。そのための合い言葉は、やはり、「政
権交代で原発ゼロへ」ということだと思います。
力を合わせて、それをやりきつけてい
きたいと思います。

今日はありがとうございました。

◇